

学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	PUTRI DAMAYANTI
審 査 委 員		主 査 氏 名	佐藤 文明
		副 査 氏 名	柳 歩
		副 査 氏 名	日高 勇一
[論文題名]			
The Relationship Between CTLA-4 (-318 C/T) Polymorphism and Urothelial Cancer Carcinogenesis in Japanese Patients 日本人における CTLA-4 (-318 C/T) 多型と尿路上皮がんとの関係 Journal of Cureus, 15(10): e48068, 2023, DOI: 10.7759/cureus.48068			
[要 旨]			
<p>尿路上皮がんは最も一般的な泌尿器系がんの一つであり、幾つかの要因がその増殖に影響を与える。これらの最も顕著な要因は遺伝的特徴であり、PUTRI DAMAYANTI 氏は Cytotoxic T-Lymphocyte Antigen-4 (CTLA-4) 遺伝子が尿路上皮がんの感受性遺伝子である可能性に着目し、CTLA-4 遺伝子 (CTLA-4 -318 C/T) における遺伝子多型とその尿路上皮がんとの関連性について検討した。方法では、253 名の尿路上皮がん患者群と 272 名の対照群から構成された調査対象母集団について、末梢血細胞から DNA を抽出後、polymerase chain reaction-restriction fragment length polymorphism を用いて、CTLA-4 -318 C/T 遺伝型を検出した。その結果、C/T (adjusted OR (aOR) 3.37; 95%CI: 1.98-5.74) 遺伝型、C/T + T/T (aOR 3.25; 95%CI: 1.96-5.39) 遺伝型, and T allele (aOR 2.94 95%CI: 1.87-4.62) 遺伝型は全て尿路上皮がんの顕著な危険因子であり、喫煙者群と比較して非喫煙者群で多い遺伝多型の影響を伴っていた。さらに、男性と女性において、この遺伝子多型と尿路上皮がんの発生の関連性は類似していた。結論として、PUTRI DAMAYANTI 氏は日本人患者における CTLA-4 -318 C/T と尿路上皮がんの関連性を初めて解析し、その顕著な関連性を解明した。同氏は本研究結果が尿路上皮がんにおける遺伝子多型に関する研究の発展を支持し、がんにおける免疫応答の重要な経路とな</p>			

ると考えている。さらに、本研究は CTLA-4 遺伝子多型と尿路上皮との関係の解明に有用であると考えている。

本研究論文は英文雑誌『Journal of Cureus』に受理されており、当該領域において重要な知見であると認められる。また、質疑応答では同氏は主査と副査からの質疑に対して的確に応じた。

本学位論文審査の結果から、学位論文に値すると判断した。